

ここまち インタビュー



牛山元美 医師
@内科の診察室にて



私たちのまちの人びとが「せいきょう病院」と呼んで親しんでいる「さがみ生協眼科・内科」の内科部長・牛山元美医師は、福島原発事故以来、放射線被害について講演をされて、診療にお忙しいにもかかわらず気軽に市民の前に立たれていることで知られています。「甲状腺がん支援グループあじさいの会」の共同代表であり、昨年6月からふたつの診療所とふたつ介護施設を運営する神奈川北央医療生活協同組合の理事長に就任し、まさに地域医療のキーパーソンならぬキードクターとして活躍される牛山先生のフットワークは何処から生まれるのでしょうか。昨今話題のPFAS（ピーファス）についても講演活動をされ始めた牛山先生をお訪ねして、お医者サマとして地域医療に取り組むお気持ちを伺いました。

医師だから言わなきゃ、ねっ!

～医師として、母として牛山センセに訊く

——やはり福島の子どもたちを支援されていること、こちらの診療所がその拠点病院となっていることを抜きに、牛山先生のご活躍を語れない気がしますが、きっかけは何だったのでしょうか？

もともと原爆症の認定裁判に前の院長が関わっていたり、原爆の証言をされていたおばあちゃんが患者さんだったり、被曝関連検診を行う素地がありました。2004年に日本のがんの3%ぐらいは医療被ばくによるものだという新聞報道があり、循環器科医師である自分がもしかしてがんをつくっていたのかと高木学校の講演会に足を運び、チェルノブイリについても学びました。そして、3.11です。母親として子どもを逃がさなければと思いました。子どもを守りたい。けれど、私は医師としての仕事をしたい、医師として患者さんも守らなければならない。自分に何かできるかということと向き合わなければならないと考えました。水俣の医師からも助言を受けて、何よりも現場を知らなければならないと福島に行き始めたのです。

——原発事故の健康被害というのは、確かにあるのでしょうか？健康被害のある方に寄り添ってどのようなことを感じられていますか？

甲状腺がんになった福島のお子さんは本来の統計に比べるととても多くおられます。でも、原発事故との因果関係は疑われながらも公的には認められていません。事故後、相模原市教育委員会に放射能対策の申し入れに母親のひとりとして何人かで行ったことがあります。私が医師だということを知ると教委の対応が変わりました。社会的に発言していくことが医師の使命だと感じたときでした。そのとき市教

委と一緒にいった、福島から避難されていた方が、「原発事故によって暮らしは大変になったけれど、人生は豊かになった」と、前向きに言われたのを最近聞きました。どこかで3.11をネタにしているのではないかと一抹後ろめたく思っていました。確かにこの活動を通して自分の人生も豊かになりました。いろんな苦勞をしても人生を豊かにできればいいじゃないと思えました。放射能被害を考えれば、地震の多いこの国で原発稼働はあり得ないと考えています。

——先日、牛山先生の「PFASとは何か？」の講演を聞かせていただきました。PFAS問題と地域医療というところをどのようにお考えでしょうか？

因果関係はまだ解明されていないので、まずは疫学的に考えることが大切だと思います。汚染された地域とそうでない地域の比較です。国は、疫学の研究結果をもっと尊重すべきです。科学的に因果関係を解明しようとして動物実験をしても、PFASには動物とヒトでは体内で異なる代謝、動きをすることがわかっています。ヒトにとってどんな影響があるのかを調べるためには、ヒト自体を調べるしかありません。幸いなことに、当院では1万円ちょっとでPFASの血液検査※を受けることができます。みなさんに積極的に検査をしていただいて知見を集めることができるというのと同時に、地域にいる人たちが地域で健康に暮らしていくための医療生協としての責任を改めて感じています。

※「さがみ生協眼科・内科」では、民医連の協力を得て希望者にPFAS血液検査を有料で実施しています。

※牛山先生のお話を6月14日(土)大野南公民館で聴くことができます。4ページのinformationを参照ください。

当たり前のような水の巡り

それは奇跡の恵みだった



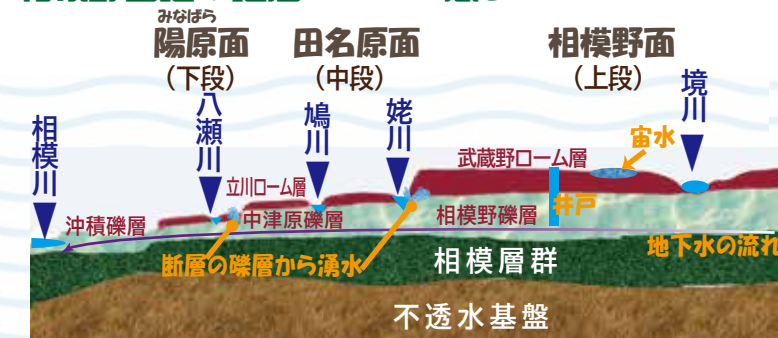
ピーファス PFAS 汚染とわたしたちはどれくらい近いのだろう？

道保川の環境汚染に不安を持った地域市民が自主的に東京新聞と京都大学の原田浩一准教授のPFAS調査に持ち込み、全国的にも高濃度の汚染が見つかりました。南橋本にある地下水を利用しているマンションでも飲料水で基準値の6倍を超える検査結果が出て、県水道に切り替えられました。

「相模川さがみ流域協議会」が情報公開を求めて地下水脈の上流にある「スリー」

「スリー」は、米軍基地施設の情報公開を求めていますが、汚染は足元です。

【相模野台地の地層はこんな感じ】



わたしたちの暮らす相模野台地は、相模川中下流部の左岸に位置して、主に相模川の堆積作用によって形成された扇状地に由来する河岸段丘です。足元の地学を知ると、いのちや暮らしが恐ろしく長い自然の営みに支えられていることが伝わってきませんか？

■PFAS(ピーファスと読みます)という言葉がマスコミ報道でよく耳にするようになりました。PFASは、約1万種あるともいわれる有機フッ素化合物の総称です。熱に強く撥水性と撥油性に優れ、光を吸収しない使い勝手の良い物質として重宝されてきました。自然界に存在せず分解しにくいことから「永遠の化学物質」とも呼ばれます。この「永遠さ」は、いったん環境に蓄積されてヒトの体内に入るとなかなか排出されず発がん性などの健康リスクをもたらすこととなります。■このため、PFAS全体に対する規制が世界的に進行中です。中でも泡消火剤に使用されていたPFOS(ピーフォス)は2009

年に製造・使用禁止。テフロンや食品包装に使われていたPFOA(ピーフォア)は2019年に製造・使用禁止となっています。しかし、その一方で代替品のPFASは日々生れています。日本全国で行われた地下水の水質検査では、2024年7月現在、環境省の定める暫定基準値(50ナノグラム/L)を越える地域は209箇所にとびます。■わたしたちのまち相模原でも道保川の魚から全国平均の340倍のPFASが検出されました。南橋本の工場地帯とその周辺の井戸から

も高濃度のPFASが検出されています。また、沖縄の米軍基地周辺、横田基地のある東京多摩地区で高濃度となっているのは、泡消火剤を使用している消火活動・訓練など基地活動により周辺へと漏れ出したPFASが水源を汚染しているからではないかと疑われています。■地下水の動きは目に見えませんが、日々、巡っている水の恩恵に浴しながら気にかかることもなかったのだと改めて思い至りました。この「永遠の化学物質」にさらされてマイクロプラスチックや放射能と同じように現在進行形で進む環境汚染に向き合うことを教えられた思いです。まず、このまちの水事業を知ることから始めませんか？

わたしたちのまちの水事情

なるほど潤水 暮らしのまわりの河川・湧水・雨水・地下水・上下水道



相模原市の公共下水道は、1972年から「汚水」と「雨水」を別々の下水道管に流す「分流式」に変更しました。それまでの「合流式」のところと半々ですが、雨がたくさん降ったとき未処理汚水が道にあふれさせたり、不要な汚水処理をさせることなく河川に流せるよう転換が進められています。

汚水と雨水の行方をちゃんと考えることが地下水を守ることにつながる

※ 宙水(ちゅうすい)は、地下水面より上方の地層に存在する地下水のことです。帯水層内の粘土層などの難透水層の上に溜まった地下水で、他の地下水とはつながりありません。関東ローム層の上にある相模原には、鹿沼、大沼など宙水が多く見られるのですね。

▲酒匂川河口から2.3km上流に位置三保ダム(丹沢湖)を原水とする取水せき

地下水にもある分水嶺

相模川と境川のあいだには地下水の分水嶺があります。相模原補給廠からの地下水は境川に流れ(さくら色矢印)、3Mジャパンから漏れ出る地下水は相模川側に流れていくことに。座間市は、豊かな地下水が注ぎ込む立地で、県の水道とは独立した地下水系を活用しているのですが、昨今のPFAS汚染によって、県水に移行する水源が出てきています。

現在進行形のPFAS汚染に関心を持ちましょう。わたしの健康とともに未来の健康のために…

本紙面の記述・構成につきまして次の資料ほか相模原市・神奈川県HPの公開情報を参考とさせていただきます。『アゴラ』110号、112号『相模原市の地下水』(S58年3月相模原市環境経済局公害対策課)『身近な有機フッ素化合物から身を守る本』(植田武智・著 食の安全・監視市民委員会 2024.3.25発行)ほか。また、牛山元美医師より講演PPスライド資料を提供いただき、全体包括レクチャーは金子ときおさん、道志村・緑区内写真は安川源通さんに提供いただきました。まとめ文責はNPO法人こずつとにあります。

現在PFASの規制はどうなっているの？

PFOAの規制は水質基準としてではなくその下のレベルの水質管理目標設定項目であったため、ダムごとの汚染が見つかった岡山県吉備町では対策が遅れ町が住民の血液検査を負担することになりました。環境省の専門家会議は昨年末から、水道法の規制を強め、基準値の検討を進めています。対策は手探り状態なのです。

「PFAS」海外の基準値	
アメリカ (今年4月決定)	PFOS・PFOAそれぞれ 1Lあたり4ナノグラム
ドイツ (2028年から)	PFOS・PFOAなどの合計が 1Lあたり20ナノグラム
日本	(暫定目標値) PFOS・PFOAの合計が 1Lあたり50ナノグラム

南区は緑道がいっぱい



自然流下が可能のところまで汚水を圧送するポンプ場。相模原市には6箇所あり、拠点となる深堀ポンプ場は24時間体制で各ポンプ場の運転を監視。すべての汚水は柳島水再生センターに送られます。

相模川河口の茅ヶ崎市側に位置相模川流域の関連市町7市1町(茅ヶ崎市、平塚市、藤沢市、海老名市、綾瀬市、座間市、相模原市、寒川町)の下水処理

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/108088/yanagishima.pdf

暮らしのなかにある PFAS を知ろう



防水加工の衣服

防汚加工したソファ



殺虫剤とその容器

テフロン加工のフライパン



泡消火器



化粧品

PFAS は水の循環を通じて 環境に漏れ出ているだけでなく、日常的な暮らしで使われている製品のなかにも含まれており、そうした製品を使うことで、直接にばく露するだけでなく、廃棄されて環境をさらに汚してしまいます。それを避けるためにも、いま、どこで、どのように使用されているか知ることが大切です。PFAS は、熱にも光にも強く、水も油もはじく性質を持つことから、以下のように身の回りで使われています。

・**フライパンや鍋** テフロンなどフッ素樹脂加工したものは使用を避け、へらを使ったりクレンザー使用は避けましょう。コーティングされていない鉄製

やステンレス製、セラミック加工のものを。

・**ファーストフードの包装紙** ハンバーガーやポテトの包装紙、紙のストローにも使われているものがあります。マクドナルドは2025年末までに使用中止を決め、モスバーガーはハンバーガーの包装紙には不使用でポテトにのみ使用と、各チェーン店で対応が進んでいます。



バーガーやポテトの包み紙

・**デンタルフロス** 歯垢をきれいにするフロスに使われています。テフロン樹脂を使って滑りやすさをアピールしています。インターネットでも簡単に購入できますが特に注意が必要です。

・**化粧品** ファンデーション、マニキュア、コンシーラー、日焼け止めなど皮脂や汗による化粧崩れを防ぎ、広く行き渡るための表面処理のために使われています。成分表示

に有機フッ素を示す「～フルオロ～」という文字が含まれているものを避けるといいでしょう。

・**衣類や家具やアウトドア用品** 衣服や布製家具・カーペットなどの防水・防汚加工に使われています。スキーウェアなどに使う防水スプレー、スノーボードのワックスにも含まれていることがあります。

・**泡消火剤** 軍事基地、空港などで火災時に威力を発揮し、頻繁な消火訓練による汚染が進んでいると思われます。

そのほか、電子機器や半導体製造過程で使用されたり、摩擦を起こしにくい医療器具のカテーテルなど、多用途に使われているので、すべてを一気に使用禁止とできません。だからこそ、その使用範囲を良く知って、できる努力を見つけていく必要なのです。

ひとりからできる PFAS 対策

少しでもPFASの含まれている製品を暮らしから排除していくと同時に、飲料水については、活性炭を使った浄水器利用がオススメです。ペットボトルのミネラルウォーターもPFASが検出されたものがあり、必ずしも安全ではありません。イオン交換式の浄水器では除去できませんし、煮沸消毒も有効ではありません。活性炭を利用した浄水器でも、適切な活性炭の交換が必要です。廃棄した活性炭は、1100℃以上での焼却が推奨されています。相模原市は対応できる高温焼却炉がありますが、もちろん、高温処理による別の化学物質についての監視も必要となります。だからこそ――

**情報公開と市民の関心と見守りこそが
未来にわたる健康を手にしていく方法と考えています**

Information

そして、わたしたちは知ることから始めます。どうぞ、一緒に。

ピーファス

市民講座 PFASを知ろう!

2025年6月14日(土) 14:00~16:00

講師●牛山 元美医師 (さがみ生協眼科・内科)

会場●大野南公民館 大会議室2 ●入場無料

共催●大野南自治会連合会 / NPO 法人ここずっと

問合せ先●☎090-1603-0686 (田嶋)

『フリー情報紙 ここずたうん』 No.26

〔発行日〕2025年4月〔発行者〕NPO法人ここずっと



〒252-0303 南区相模大野9-6-18
ここずたうん編集室

ご意見、投稿、記者志望者は
ここずたうん編集室へ

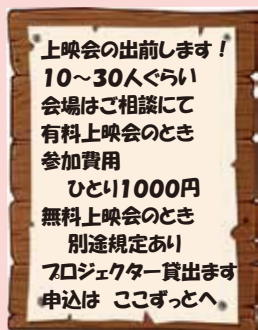
〔TEL〕042-851-5646 〔FAX〕042-742-0447

〔E-mail〕info@cocozutto.jp

※ここずたうんはまちづくりを考える【NPO 法人ここずっと】が発行しています。

クリップ・ボード

■ここdeシネマ番外編 受け付けてます



『この世界の通訳者たち』の
出張上映会をおうけします。

■お店やイベントなどをユニバーサルデザインにする
お手伝いをいたします。

UD
さがみはら

・音声コード・字幕・音声ガイド・道や会場案内など相談対応。
・NPO法人ここずっととは2024年4月より、相模原市との
市民協働事業「UD普及・啓発事業」に取り組んでいます。

・『UDさがみはら』を年3回(7・11・3月)、相模原市と協働で発行しています。お手にしたい方は、どうぞ、ご連絡ください。

■NPO法人ここずっとは
市民相談窓口を開いています。相談は☎042-851-5646へ。